

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日 更新

事務事業名		パーク＆ライド事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり				所属部	政策部	課長名	澤田 勝矢
	施策	4	公共交通の充実				所属課	企画課	担当者名	吉田 健悟
	基本事業	12	公共交通の利便性の向上				所属班	企画広報班	(内線)	1254
予算科目		会計一般	款 2	項 1	目 11	事業連番 11468	法令根拠			
終了、開始年度		☐ 26年度で終了 ☐ 26年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 21 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	国道3号熊本北バイパス高架下の新須屋駅に隣接して整備したパーク＆ライド駐車場を運営・維持管理する事業である。整備規模は、アスファルト舗装約2,300㎡、収容台数72台である。施設内には照明設備を有し、平成21年7月から合志市地域公共交通計画に基づく実証実験として運用を開始した。北バイパス新須屋駅周辺は、合志市総合計画にある交通結節点強化事業の一つとして位置づけられ、熊本市圏都市交通アクションプログラムにおいても交通結節点としての機能強化が謳われている。平成20年3月の国道3号熊本北バイパスの供用開始にあわせ、平成19年8月に熊本電鉄が新須屋駅を北バイパス高架下へ移設した。国道3号熊本北バイパスの全線開通と路線バス運行や本市公共交通事業が本格化することにより、さらに南部の交通結節点として重要性が高まると考えられ、駅利用者の利便性向上とエコ通勤、交通渋滞緩和を目的として本駐車場を整備した。 平成25年度実施優先度評価会議において、平成26年度から新須屋駅駐輪場維持管理事業をこの事業に統合し、名称を「パーク＆ライド事業」に改めることとなった。
【業務の流れ】	施設の運営・維持管理と利用啓発活動を行なう業務である。
【主な予算費目】	特になし
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	市道須屋線の交通規制により、当該施設へのアクセスが不便との意見があった。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
・熊本電鉄による施設の運営、維持管理 ・市広報紙および市ホームページでの利用啓発記事掲載 ・熊本市圏協議会と連携して啓発事業を実施		・熊本電鉄による施設の運営、維持管理 ・市広報紙および市ホームページでの利用啓発記事掲載 ・熊本市圏協議会と連携した啓発事業の実施
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア: 協議と啓発活動の回数	回	・予算計上なし
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
⇒ ア: 利用者数	人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
⇒ ア: P & Rの利用率	%	
* ③ 成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
・パーク＆ライドの利用率が向上することは、電車が利用しやすくなる意図の向上に結びつくため。 ・平成22年3月31日での利用率は約13%、平成22年12月31日では約30%であるので、平成23年度は利用率50%である36台を目標値とした。		0

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込
① 活動指標	アイ	回	20	20	20	20	20	20	20	20
② 対象指標	アイ	人	27	46	62	38	62	62	62	62
③ 成果指標	アイ	%	43.5	74.2	90	61.3	90	90	90	100
投資 事業 費 量	財源 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円							
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	2	3	2	3	2	0	0
		延べ業務時間	時間	41	61	9	4	9	0	0
		(B) 人件費計	千円	166	243	35	15	35	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	166	243	35	15	35	0	0	

事務事業名	パーク＆ライド事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	-----------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は26年度の事後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 御代志方面からのアクセス路線である須屋線の改良が終わり、朝の交通規制が解除されれば、利用者の増加が見込まれる。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 対象指標である利用者数の増は、成果指標である利用率に直結するため、周知啓発活動をさらに工夫して実施すれば成果の向上余地はある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 市が駐車場の整備・設置を行い、管理運営については駅管理者である熊本電鉄が行っていることから、すでに連携して事業を行っている。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費がないため削減の余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の人員・業務時間数で実施している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 事業については、広く市民より利用者を募っている。 月額500円の利用料負担であるが、公の施設として市で管理するようになった場合は、維持管理費の状況に応じて利用料の見直し行なう必要がある。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 すでに管理運営については、熊本電鉄に委託している。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

これまでの啓発活動の効果により、H27.3月末の契約率は61.3%であり目標値を達成しなかったものの、月毎で見れば87.0%を超える月も見られる。
市道須屋線の通行規制が解除されれば、当該施設へのアクセスが改善され、契約率は上がるものとする。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上		○																									
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												